

令和 2 年 5 月 23 日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03054

研究課題名(和文) 東アジア礼制に基づく物質文化研究 日・中・韓・越・琉の宮廷工芸を対象として

研究課題名(英文) Material Culture Study on East Asian Court Crafts

研究代表者

猪熊 兼樹 (Inokuma, Kaneki)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部・室長

研究者番号：30416557

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、東アジア文化圏について、礼制という秩序理念に基づく宮廷が運営された歴史的事実を根拠とし、中国大陸・日本列島・朝鮮半島・越南地域・琉球諸島によって設定した。礼制は身分に応じた建築・器物・衣服などの形式や意匠の規格に言及するため、物質文化と密接な関係をもつ。さらに礼制は社会規範でありながら、社会的実情に応じた適用を前提としていたため、東アジア地域に広がり時空を超えた普遍規範となった。すなわち東アジア宮廷工芸には、礼制に基づく共通規格とともに、各宮廷の背景にある国家・地域・民族・時代などを反映した相異特色も現出するので、東アジア文化を相対的に検証するうえで好資料となることを確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は宮廷工芸を対象とするが、「もの」に現出する形式・意匠などの様式や作者・技法に関心をおいた美術史的な観点ばかりでなく、「もの」の背景にある環境・時代・社会・生活にまで考察を及ぼす物質文化研究としての観点を重んじた。物質文化研究は欧米において発達したが、必ずしも欧米式の学術理論を応用するのではなく、東アジア宮廷の普遍規範である礼制に基づいて、東アジアの実情に即した実証的な物質文化研究の構築を試みた。

研究成果の概要(英文)：In this study, the East Asian cultural range was set by the China mainland, the Japan archipelago, the Korea peninsula, the Vietnam region, and the Ryukyu islands, based on the historical fact that the court was operated based on the courtesy system. That system has a close relationship with material culture because it refers to the styles such as construction, utensils, clothes, etc. according to the social status. Furthermore, although the courtesy system was a social standard, it was premised on its application in accordance with the social circumstances, so it spread to the East Asian region and became a universal standard beyond time and space. In other words, East Asian court crafts have a common style based on the courtesy system, as well as different characteristics that reflect the nation, region, ethnicity, and age behind each court. Based on the above, it was confirmed that East Asian court crafts are good materials for relatively examining East Asian culture.

研究分野：工芸史

キーワード：宮廷 物質文化 工芸 礼制 東アジア

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、日本の宮廷を対象とする「宮廷工芸に関する物質文化的研究」(2010-12年度科学研究費補助金〔基盤研究C〕)に取り組み、また中国の北京故宮博物院、韓国の国立古宮博物館、ベトナムのフエ宮廷博物館、首里城などの調査を通じて、日本の宮廷工芸の規格となる宮廷礼法の知識体系(いわゆる有職)が中国において発達した礼制と密接な関係をもつことを確認して、1. 礼制は儒教的秩序理念を具現するために、宮廷工芸の様式を形成する重要な役割を果たす。2. 日本・中国・韓国・ベトナム・琉球(沖縄)の宮廷工芸には礼制に基づく共通規格とともに、各宮廷の背景文化が反映した相異特色が見出される。という2点に強い関心をもつに至った。本研究は、そのような関心に基づく調査を行ない、東アジアの実情に即した実証的な物質文化研究の構築を目指した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、東アジア(日本・中国・韓国・ベトナム・琉球)の宮廷工芸(宮殿・調度・服飾)を対象とし、東アジアの実情に即した物質文化研究を構築することにある。本研究の学術的な特色は、東アジア文化圏を中国大陸・日本列島・朝鮮半島・越南地域・琉球諸島として設定することにある。本研究の独創的な点は、東アジア宮廷の普遍規範である礼制と宮廷工芸の様式との関係性に着目し、各宮廷工芸の共通規格と相異特色を相対的に検証することにある。

例えば、従来、東アジア文化圏の枠組みで日本文化を論じるとき、歴史的に交流が盛んであった中国や韓国の文化との影響関係を検証するのが一般的であった。これに対し、本研究では、諸文化の内容を均等に論じる相対的文化史観に基づいて東アジア宮廷工芸を検証するので、日本の宮廷文化との影響関係が希薄であるベトナムや琉球などの宮廷文化とも積極的に相対させ、相互の共通規格や相異特色の検出に努める。

3. 研究の方法

本研究は宮廷工芸を対象とするが、「もの」に現出する形式・意匠などの様式や作者・技法に関心をおいた美術史的な観点ばかりでなく、「もの」の背景にある環境・時代・社会・生活にまで考察を及ぼす物質文化研究としての観点を重んじた。物質文化研究は欧米において発達したが、必ずしも欧米式の学術理論を応用するのではなく、東アジア宮廷の普遍規範である礼制に基づいて、東アジアの実情に即した実証的な物質文化研究の構築を試みる。本研究の研究方法は、記録調査、実物資料調査、用例調査、総合検証の4つに大別される。上記～の具体的な調査方法は下記の通り。

記録調査(文献史料における宮廷工芸に関する記事の記録分類)

東アジア宮廷における普遍規範となった礼制は、宮廷の儀式・行事において秩序理念を具現するため、宮殿・調度・服飾の形式・意匠などの規格に言及していた。従って、宮廷の儀式・行事の内容に対する理解は欠かせない。いずれの宮廷においても、儀式・行事に関する詳細な記録を蓄積しているのが通例であり、それら文献史料の調査を通じて、宮殿・調度・服飾に関する記事の記録分類をする。

実物資料調査(宮廷工芸の実物資料に関する形式・意匠などの様式分類)

本調査は、現存する東アジア宮廷の宮殿・調度・服飾の実物資料を対象とし、それらの形式・意匠などについて様式分類するものである。人間の生活にとって工芸品は不可欠であり、その形式・意匠などには、それらを用いた人間の生活文化が必ず反映する。従って、かつて東アジア宮廷に暮らした人々が実際に用いた「もの」を調査することは、東アジア宮廷工芸に具体的に現出する共通規格と相異特色を検証するうえで重要である。



安政度内裏(京都御所)飛香舎調度



朝鮮文官服(団領)



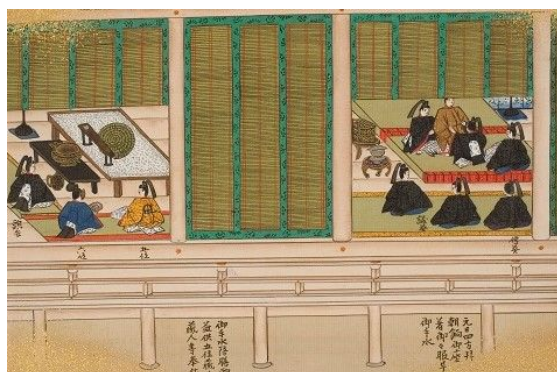
首里城正殿御差床



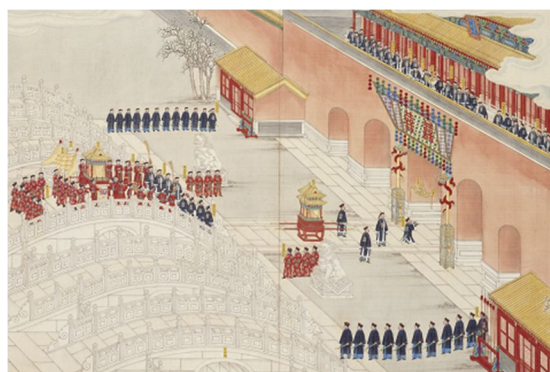
フエ皇城午門

用例調査（絵図・伝統行事における宮廷工芸の実際用途の用例分類）

東アジア宮廷における宮殿・調度・服飾は儀式・行事ごとの各種礼法によって用いられた。これらの実際用途には特殊な作法が要求されるのが常であり、その用例調査は重要である。いずれの宮廷においても儀式・行事を絵図などの形式で記録することは広く行なわれており、それら絵図資料を用いて使用状況を調査する。



『旧儀式図画帖』における清涼殿の場景



『光緒帝大婚図冊』における天安門の場景

総合検証（上記 ~ の総合に基づく東アジア宮廷工芸の相対的検証）

上記 ~ の諸調査は、同時並行的に進めて、文献史料・実物資料・実際用途を総合的に分析する。そして、その総合的な分析に基づき、東アジア宮廷工芸について、礼制という普遍規範のもとに相対的な検証を行ない、東アジア宮廷の実情に即した実証的な物質文化研究を構築する。以上の調査や検証にあたっては、東アジアの宮廷工芸について世界各地の時代・地域・民族の工芸品のなかで共通認識をもって比較検討しうるように、汎用性を意識した研究体系を構築する。

4. 研究成果

本研究は広義の東アジア文化史研究であるが、その東アジア文化圏を中国大陆・日本列島・朝鮮半島・越南地域・琉球諸島によって設定した。一般に東アジアというと、中国大陆・日本列島・朝鮮半島の一帯を指すが、これは近現代的な国民国家観に依拠する地域区分である。かつて東洋史学において、漢字文化圏という観点から、ベトナムを含めた東アジア文化圏が提示されたこともあるが、依然としてベトナムの美術品や工芸品については東南アジア文化圏に含む見方が強い。また、琉球（沖縄）についても日本の一地方とされがちで、その独自文化を東アジア文化の一角として説かれることは少ない。そのような状況のもと、本研究では、礼制という儒教的秩序理念に基づく宮廷が運営された歴史的事実を根拠とし、上記の東アジア文化圏を設定した。

本研究は東アジア宮廷で用いられた宮殿・調度・服飾を対象とした。東アジア文化圏の中枢にあった中国の宮廷では儒教的秩序の維持に努め、その理念を礼制によって具現した。礼制は身分に応じた建築・器物・衣服などの形式や意匠の規格に言及するため、物質文化と密接な関係をもつ。さらに礼制は社会規範でありながら、社会的実情に応じた適用を前提としていたため、東アジア地域に広がり時空を超えた普遍規範となった。すなわち東アジア宮廷工芸には、礼制に基づく共通規格とともに、各宮廷の背景にある国家・地域・民族・時代などを反映した相異特色も現出するので、東アジア文化を相対的に検証するうえで好資料となることを確認した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 猪熊兼樹	4. 巻 53号
2. 論文標題 フエ皇城世廟の九鼎の意匠	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京国立博物館紀要	6. 最初と最後の頁 pp5-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 猪熊兼樹
2. 発表標題 宮廷の年中行事
3. 学会等名 東京国立博物館月例講演会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 猪熊兼樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京国立博物館	5. 総ページ数 4
3. 書名 京都御所 飛香舎(藤壺)の調度	

1. 著者名 猪熊兼樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京国立博物館	5. 総ページ数 72
3. 書名 『旧儀式図画帖』にみる宮廷の年中行事	

1. 著者名 猪熊兼樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京国立博物館	5. 総ページ数 24
3. 書名 朝鮮王朝の宮廷文化	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----